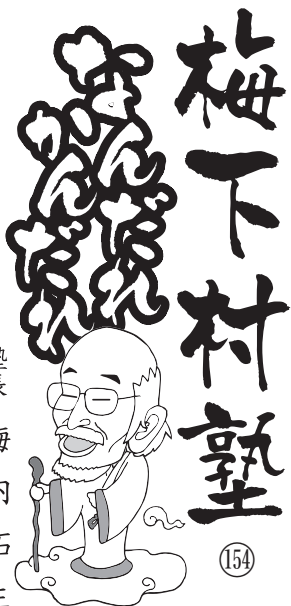


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



(154)

肥料買う

大津波が巻き起こす地獄の世界、それが過ぎ去ると海は静まり、恵み多き海となる。海と暮らすには常日ごろから津波への心と魂の備えを怠らずに、海の幸を楽しんで暮らすよ。

返句

陽はのぼる 無事を祈って 珊瑚島

(とわすがたり)

のり 津波のような大波が押し寄せて来る場合には、てんでんこに、逃げるのがいいのだなあ！

おさむ 引き返して誰かを助けようとしても、津波にさらわれてしまふからなあ！

あつし まずは高台に逃げるのだなあ！逃げ遅れた人は波にさらわれたからなあ！

のり 今回の韓国の

海難事故は人災だね！シーマンシップ(海員魂)の不在だね。

おさむ 4月19日の世迷言にこのことが載っているよ。

あつし (てんでんこ)とシーマンシップ(のさじ加減をする修行が必要なんだね。

(詭弁と言あげ)

中国の裁判所が1930年代の船舶賃借をめくり商船三井の船舶の差し押さえを認めた判決を下した。これは1872年の日中共同声明で中国政府は戦争賠償請求の放棄を表明している。

日本政府は総額3兆円余りの円借款を供与し、中国の経済発展を支えてきた。習政権の今回の決定は国際条約の信義に反するものであるが、日本政府も中国への援助を国民にも世界にも明らかにする努力を怠ってきた。

国際関係においては自国の理念と行動を明らかにすることが第一である。近隣にある(詭弁と言あげ)の国との付き合いには、このことを肝に銘じなければいけない。隣国の海難事故対応の問題から、わが国の事故対応のあり方の評価がなさ

れているが、当事者の

みならずその上の行政、政治レベルの対応の仕方への厳しい見方が必要である。それは3兆円以上の援助を国民の税金から中国に与えながら、それを国民に明らかにしてこなかった行政府と政治家の

対面が今回の中国による三井商船の差し押さえを招いているのである。近隣諸国の(詭弁と言あげ)と日本文化の(長いものには巻かれる)には気を締めて立ち向かわねばならぬい。

4月19日付 東海文芸

俳句 大船渡町

小野寺 功

(心と魂の備え)

海を見る薄紅梅ののどかさよ

牡丹の芽花壇の中で存在感

プランター種播く準備